

## 恵まれた通訳者

— *The Translator* を読んで —

柴原 早苗

(放送通訳者)

放送通訳業に携わる私にとって、スーダン西部で起きているダルフル問題は何年前から訳し続けてきた内容だ。しかし様々な民族や当事者がこの衝突の背後にはあり、問題は非常に複雑である。正直なところ、現場での私は固有名詞と犠牲者人数を何とか洩れなく伝えるだけで精いっぱいだったのだ。本来、放送通訳者であれば、歴史的背景や地理的情勢、政府および武装勢力の主張などを徹底的に調べるべきであろう。内容そのものを知らなければ訳も表面的になってしまい、自分自身の訳に自信が持てないからだ。それだけにダルフル情勢は私の学習課題の一つとなっていた。

今回、本書を手にとったのは、ダルフル問題を徹底的に学びたいという気持ちがあったためだが、それ以上に引かれたのが著者 Daoud Hari 氏のプロフィールである。同氏はダルフルのザガワ族出身。反逆罪でつかまったり、エジプトで投獄されたりするなど紆余曲折を経て、通訳者として外国人記者の取材に尽力してきた。紛争地域において、報道を舞台裏で支える通訳者とはどのようなものなのか。そのような考えを抱きながら、私は本書を読み進めてみた。

書籍の前半は Hari 氏の生い立ちなどが出ている。幼い頃は他民族同士で仲良く共存し、たとえ対立があっても自分たちで解決し、平和に暮らしていたと書かれている。幼少期を描いた文章は温かい思い出に満ち溢れており、今の紛争からは想像すらつかない。氏は例として、読者が初めて自転車をもってうれしいのと同様、自分も初めてラクダを手に入れて幸せな気持ちでいっぱいだったと綴っている。

しかし衝突が始まり、女性や子どもを巻き込んだ残虐な行為が繰り返されるようになる。スーダン政府軍やアラブ系の武装勢力「ジャンジャウィード」が、アラブ系以外の部族を標的に見境なく攻撃を仕掛けてきたのである。その描写は読んでいても生々しく、映像以上の衝撃をもって迫ってくる。

ダルフル紛争が勃発したのは、Hari 氏がまだ子どもの頃である。その後、氏は抵抗勢力の一員として自分の村を守るか、学問をとるか悩む。その時、兄に諭されて勉強を続けることとなり、英語に魅了されるのである。学問を通じて世界の広さを知った彼は、やがてダルフルを離れ、エジプト入りするものの、書類不備で投獄されてしまう。ようやく出獄し、ダルフルへ戻るも、現地の惨状は一層ひどくなっており、尊敬していた兄を武装勢力による攻撃で失ってしまったのである。

失意の中、Hari 氏は生きるために自分は何ができるか、考えるようになる。そして、

世界にダルフルの惨状を伝えるには自分の英語力を活かすしかないと考え至る。その結果、通訳者として外国人記者の取材に同行するようになったのである。

しかし通訳者として海外の記者に随行するためには、ダルフル出身であることを隠さなければ、スーダン政府に捕らえられてしまう。そこでチャドの難民キャンプに入り、自分はチャド市民であると名乗り、リスクを背負いながらも通訳者として歩み始めたのである。これについては、“It was a risk, ... But you should always do what you need to do to be helpful.”と記されている。

本書の中では、Hari 氏が通訳をしたエピソードがいくつか描かれている。中でも印象的なのが、あと一步で殺害されるという場面である。それは、あるイギリス人記者と取材で移動中、氏は偽名を使い、変装していたにも関わらず、突如現れた武装集団に取り囲まれ、身元を明かさねようになったときである。しかし、イギリス人記者は偶然にもその武装集団の幹部を取材したばかりであった。記者はその場で幹部に電話をかけ、Hari 氏のこめかみに銃を突き付ける武装勢力にその電話を取り次いだ。幹部としばらく会話を続けた兵士は、やがて銃を降ろしたのである。

まさに偶然と幸運が重なったとも言えるが、いずれにせよ、紛争地域で活動する通訳者は、こうした業務上の危険と常に隣り合わせなのだ。その一方で、記者たちは通訳者がいて初めてレポートを作成することができる。Hari 氏のような存在があるからこそ、世界はダルフル情勢をより深く知るようになったのである。

翻って自分自身を見てみると、冷暖房完備のブースで命の危険など一切感じることなく、通訳を続けている。訳出できずに苦しむことはあっても、明日のわが身がどうなるかなどという心配はまったくないのだ。自分はいかに恵まれた通訳者であるか。これが読後真っ先に感じたことである。

書籍情報： *The Translator: A Tribesman's Memoir of Darfur*  
著者： Daoud Hari  
出版社： Random House  
出版年： 2008 年  
頁数： 204  
ISBN: 978-1-4000-6744-2 (ハードカバー)

---

著者紹介：柴原 早苗 (SHIBAHARA Sanae) ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス大学院修了。ロンドンの BBC ワールドにて放送通訳業に従事。帰国後は CNNj の放送通訳を始め、英語学習に関する指導・執筆業に携わる。現在、アルク「English Journal」で BBC News を監修。連絡先：shiba@kd6.so-net.ne.jp

---

